

# ニュースレター

2015年 3月 2日発行

昨年6月に宮城県南部及び北部のご協力のあった教育委員会と公立小・中学校で、小学2・4・6年生と中学2年生の子ども28,159人を対象に宮城県小・中学生の健康アンケート調査を実施いたしました。  
\* 7,226人の方からご返送いただき(回収率25.7%)、うち有効回答が得られた6,451人分のアンケートを対象に集計・解析を行いました。

## 平成26年度「宮城県小・中学生の健康アンケート調査」より ～津波と居住環境の変化の影響は?～



【平成26年度調査結果】

	全体 6,451人	津波経験		居住環境の変化	
		なし:5,538人	あり:913人	なし:4,878人	あり:1,573人
気管支喘息の症状*	10.0%	9.7%	11.7%	9.6%	11.0%
アトピー性皮膚炎の症状†	21.1%	20.5%	<u>24.5%</u>	20.4%	<u>23.1%</u>
毎日の生活に難しさを抱えている子ども‡	15.3%	14.8%	<u>18.4%</u>	14.2%	<u>18.7%</u>

※下線は統計的な有意を示しています。

気管支喘息\*、およびアトピー性皮膚炎†は、有症率、重症度の国際間比較ができ、生活環境や治療による影響について多くの疫学調査にも標準的に使用されているISAAC(アイザック)という指標を使用しました。こころの健康‡の質問については、子どものこころの健康の様子について国際間比較ができ、生活環境など様々な影響に関する多様な領域の調査や、実際の支援現場でも使用されているSDQ(Strengths and Difficulties Questionnaire)という尺度を使用しました。

津波を経験した子どもや居住環境の変化があった子どもは、アトピー性皮膚炎の症状や毎日の生活に難しさを抱えている子どもの割合が多いことがわかりました。津波の経験や居住環境の変化がどのようにして子どもの健康に影響しているか、多方面からの検討が望まれます。また、より多くの方のご協力をいただきまして引き続き調査が必要と考えています。

調査に参加した子どものうち、アンケートの回答で気管支喘息・アトピー性皮膚炎の症状があると思われる子どもには、それぞれ保護者の方に体調管理やスキンケアに関するリーフレットをお送りしました。また、子どものストレスの表現方法はいろいろあるため、全ての保護者の方に子どもと関わる際のヒントとなるリーフレットをお送りしました。

宮城県北部地域では、  
来年度も実施予定です。  
ご協力をお願いします！



発行元: 東北大学東北メディカル・メガバンク機構  
地域子ども長期健康調査事業事務局  
〒980-8573仙台市青葉区星陵町2-1 TEL:022-718-5163

人物イラスト制作 橋本さと子